

小中英語研究部会 小学校第4学年 指導案

授業日：令和3年10月28日

公開校：高山市立南小学校

授業者：橋下 杏子

ALT : Hemi Witehira

1 単元名

Let's Try 2

Unit 7 『What do you want? ほしいものは何か?』

2 単元について

(1) 題材について

本単元は、身の回りでよく見かける野菜や果物の言い方に慣れ親しむことから始まる。世界の市場の様子を映像で見ることを通して、置かれている野菜や果物が日本とちがうことを知ったり、初めて見る物を見つけたりしながら、身の回りでよく見かける野菜や果物の言い方に興味をもってほしい。この単元に登場する野菜や果物は意外と児童が耳にしたことのあるものがほとんどであるが、「しいたけ」など、何と言ったらいいのかわからないものや、日本語とは発音が異なるものもいくつかあり、日本語と英語の相違点に気付くことができる単元でもある。野菜や果物の言い方に慣れ親しむと同時に、ALTの好みや作りたいメニューに合わせて、自分が欲しいものを伝えたり、相手が何を欲しいのかを理解したりするようにしたい。

(2) 単元で育む資質・能力について

本単元では、買物の場面で自分の欲しいものについて伝え合う活動を行う。話し手は、聞き取りやすい声で言ったり動作を交えたりしながら聞き手を意識して伝え、聞き手は、反応を返しながら聞こうとする態度を育みたい。そして単元を通して、店員や客の立場になってやり取りをすることを積み重ねることで、自分の欲しいものについて英語で伝え合うことができたという達成感を味わうことができるようにしたい。活動では、ALTの好みに合うように野菜や果物を選んだり、お客さんが喜ぶようなメニューを考えたりすることで、ALTや仲間の好みを新たに知り、コミュニケーションの楽しさを実感することにつながると思っている。また、ALTがよく食べる野菜や果物、日本とはちがう言い方などを紹介することで、文化のちがいの面白さについて理解させたい。

3 児童の実態

外国語を聞いたり話したりする活動を楽しむ児童が多い。Unit4 『What time is it?』の学習では、仲間に日課を伝える時に、身振り手振りを使ってジェスチャーゲームをすることを通して、日課を表す語句や表現に親しむことができた。各単元の Let's Watch and Think では、様々な国で生活する子どもたちの様子に感嘆の声を上げる姿があり、異文化への関心がうかがえた。「英語で言えるようになってうれしい」、「もっと話せるようになりたい」と、学習に前向きに取り組んでいる。

一方で、簡単な語句は理解できても基本的な表現を用いることに難しさを感じ、自分の考えや気持ちを伝えることに苦手意識をもつ児童もいる。そこで、自然なやり取りやゲーム活動を通して何度も表現を聞く場面をつくりたい。そして、繰り返したり、動作を交えたりしながら伝え合う中で、相手に「伝わった」という実感や、コミュニケーションの楽しさを感じられるようにしたい。

4 研究主題に関わって

〈研究主題〉

「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～活動を通して習得し（思考しながら表現し）、仲間と共に高まる子どもの育成～

〈キーワード〉 Learn by doing

（１）主体性を生み出す準備と指導（魅力ある課題や活動）

本単元では、「南レストランの新メニューをつくる」という課題を設定する。第1時の単元の導入では、メニューがとて最少なくお客さんに人気がない南レストランを盛り上げるために、新メニューをつくることを提案する。好みをたずねるなど児童とやり取りすることで、「自分だったらこんなパフェやピザをつくりたい」と、課題への関心を高めたい。第2時から第4時では、相手に喜んでもらえるように考えたり、自分の好みを盛り込んだり、思考しながら語句や表現を繰り返し用いる活動を設定する。また、タブレットで音声教材を準備しておき、分からない時やもっと練習して確実にしたいという時には、自分で音声聞いて解決できるようにする。児童の自ら学ぼうとする意欲を引き出すことや、「もっと自分の言いたいことを伝えたい」と、コミュニケーションに挑み続ける姿につながると考えている。

（２）思考しながら表現するための指導過程（発信する力をつける単元指導計画）

児童が発信する力をつけるために、単元を通してインプットからアウトプットに向かう流れを設定している。第1時、第2時では、インプット重視の指導を心掛ける。チャンツやALTとのやり取りを通して、野菜や果物の名前に慣れ親しませたい。ALTとJTEのやり取りから、児童に状況と英語表現の意味も理解させていきたい。また、ゲーム活動を取り入れて英語を聞く機会を増やし、楽しく取り組んでいる間に何度も英語を聞ける工夫をする。表現の意味に合うようにゲームのルールを設定することで、児童が意味を理解しながら慣れ親しめるようにしたい。そして児童が徐々に口ずさむようにしていく。さらに第2時では、「ALTに食べてほしいものをえらぼう」という課題を設定し、コミュニケーション活動の中で実際に使うことで、語句や表現を目的・場面・状況と結び付けていきたい。第3時、第4時では、「お客さんに喜んでもらえるように、オリジナルパフェをつくらう」などと、目的・場面・状況を理解し学習したことを活用してコミュニケーションを図る活動を準備する。このように、単元を通して意図的に言語活動を仕組むことで、児童が発信する力をつけていきたい。

（３）次の学びに向かう力の育成（内容、表現、技能の見届け）

学級全体を小グループ化し、ALTとJTEそれぞれで見届けられるようにする。分からないことを児童がその場で聞けるようにしたり、よい姿をその場で伝え励ましたりするようにする。児童が自分の考えを伝えようとする姿を価値付け、さらに挑み続ける姿につなげたい。Good job timeでは、ALTに喜んでもらえるものが選べたことや、お客さんに喜んでもらえるオリジナルのメニューが作れたことなどの内容面を振り返る。また、音声やリズムに慣れ親しみ、英語表現で伝え合うことができたことを確認することで、児童が達成感を感じ、次時へのやる気や見通しをもてるようにする。